



# Red Hat Advanced Cluster Security for Kubernetes 4.5

## Central のトラブルシューティング

Central のトラブルシューティング



# Red Hat Advanced Cluster Security for Kubernetes 4.5 Central のトラブルシューティング

---

Central のトラブルシューティング

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このガイドで、`roxctl` CLI を使用して Central データベースをバックアップおよび復元する方法を学習してください。

---

## 目次

<b>第1章 ROXCTL CLIを使用した CENTRAL データベースのバックアップ</b> .....	<b>3</b>
1.1. API トークンを使用したオンデマンドバックアップ	3
1.2. 管理者パスワードを使用したオンデマンドバックアップ	3
<b>第2章 ROXCTL CLIを使用した CENTRAL データベースの復元</b> .....	<b>5</b>
2.1. API トークンを使用した復元	5
2.2. 管理者パスワードを使用した復元	5
2.3. 復元操作の再開	6



# 第1章 ROXCTL CLI を使用した CENTRAL データベースのバックアップ

Central は、次の情報を保存します。

- クラスタで確認されたアクティビティ
- 統合されたイメージレジストリーまたはスキャナーから取得された情報
- Red Hat Advanced Cluster Security for Kubernetes (RHACS) の設定

Central データベースのバックアップは、データの整合性とシステムの信頼性を確保するために重要です。必要な設定、リソース、イベント、証明書を含むデータベースを定期的にバックアップすることで、データベースの障害、破損、偶発的なデータ損失を防ぎます。

**roxctl** CLI を使用して、**backup** コマンドで Central データベースをバックアップおよび復元できます。このコマンドには、API トークンまたは管理者パスワードが必要です。

## 1.1. API トークンを使用したオンデマンドバックアップ

API トークンを使用して、RHACS のデータベース全体をバックアップできます。

### 前提条件

- **Admin** ロールを持つ API トークンがある。
- **roxctl** CLI をインストールしている。

### 手順

1. 次のコマンドを実行して、**ROX\_API\_TOKEN** および **ROX\_ENDPOINT** 環境変数を設定します。

```
$ export ROX_API_TOKEN=<api_token>
```

```
$ export ROX_ENDPOINT=<address>:<port_number>
```

2. 次のコマンドを実行して、Central のバックアップを開始します。

```
$ roxctl central backup 1
```

- 1** **--output** オプションを使用して、バックアップファイルの場所を指定できます。

デフォルトでは、**roxctl** CLI はコマンドを実行するディレクトリーにバックアップファイルを保存します。

### 関連情報

- [システムロール](#)

## 1.2. 管理者パスワードを使用したオンデマンドバックアップ

管理者パスワードを使用して、RHACS のデータベース全体をバックアップできます。

### 前提条件

- 管理者パスワードがある。
- **roxctl** CLI をインストールしている。

### 手順

1. 次のコマンドを実行して、**ROX\_ENDPOINT** 環境変数を設定します。

```
$ export ROX_ENDPOINT=<address>:<port_number>
```

2. 次のコマンドを実行して、Central のバックアップを開始します。

```
$ roxctl -p <admin_password> central backup 1
```

- 1** **<admin\_password>** には、管理者のパスワードを指定します。

デフォルトでは、**roxctl** CLI がコマンドを実行したディレクトリーにバックアップファイルを保存します。**--output** オプションを使用して、バックアップファイルの場所を指定できます。



## 第2章 ROXCTL CLI を使用した CENTRAL データベースの復元

**roxctl** CLI を使用し、**restore** コマンドで Red Hat Advanced Cluster Security for Kubernetes を復元できます。このコマンドには、API トークンまたは管理者パスワードが必要です。

### 2.1. API トークンを使用した復元

API トークンを使用して、RHACS のデータベース全体を復元できます。

#### 前提条件

- RHACS バックアップファイルがある。
- 管理者ロールを持つ API トークンがある。
- **roxctl** CLI をインストールしている。

#### 手順

1. 次のコマンドを実行して、**ROX\_API\_TOKEN** および **ROX\_ENDPOINT** 環境変数を設定します。

```
$ export ROX_API_TOKEN=<api_token>
```

```
$ export ROX_ENDPOINT=<address>:<port_number>
```

2. 次のコマンドを実行して、Central データベースを復元します。

```
$ roxctl central db restore <backup_file> 1
```

**1** **<backup\_file>** には、復元するバックアップファイルの名前を指定します。

### 2.2. 管理者パスワードを使用した復元

管理者パスワードを使用して、RHACS のデータベース全体を復元できます。

#### 前提条件

- RHACS バックアップファイルがある。
- 管理者パスワードがある。
- **roxctl** CLI をインストールしている。

#### 手順

1. 次のコマンドを実行して、**ROX\_ENDPOINT** 環境変数を設定します。

```
$ export ROX_ENDPOINT=<address>:<port_number>
```

2. 次のコマンドを実行して、Central データベースを復元します。

-

```
$ roxctl -p <admin_password> \ 1  
central db restore <backup_file> 2
```

- 1 **<admin\_password>** には、管理者のパスワードを指定します。
- 2 **<backup\_file>** には、復元するバックアップファイルの名前を指定します。

## 2.3. 復元操作の再開

復元操作中に接続が中断された場合、またはオフラインにする必要があった場合は、復元操作を再開できます。

- 再開操作を実行しているマシンにアクセスできない場合は、**roxctl central db restore status** コマンドを使用して、進行中の復元操作の状況を確認してください。
- 接続が中断された場合、**roxctl** CLI は、接続が再び利用可能になるとすぐに自動的にタスクの復元を試みます。自動接続の再試行は、**timeout** オプションで指定された時間に準じて行われます。
- timeout** オプションを使用して、時間を秒、分、または時間で指定します。**roxctl** CLI は、その時間が経過すると復元操作の再開を停止します。このオプションが指定されていない場合、デフォルトのタイムアウトは 10 分です。
- リストア操作が停止した場合、またはリストア操作をキャンセルする場合は、**roxctl central db restore cancel** コマンドを使用して、実行中のリストア操作をキャンセルします。
- 復元操作がスタックしている場合は、その操作をキャンセルしているか、時間が経過したら、元のコマンドを再度実行して以前の復元を再開できます。

### 重要

- 中断している間、RHACS は進行中の復元操作を 24 時間キャッシュします。元の復元コマンドを再度実行すると、この操作を再開できます。
- timeout** オプションは、クライアント側の接続の再試行のみを制御し、サーバー側の 24 時間の復元キャッシュには影響しません。
- Central Pod の再起動後に復元を再開できません。
- 復元操作が中断された場合は、24 時間以内に Central が再起動する前に再起動する必要があります。そうしなければ、RHACS が復元操作をキャンセルします。